

# 令和5年度 学校評価

八代白百合学園高等学校

学校教育目標	キリスト教精神に根ざした価値観を養い、地域社会・国際社会に奉仕・貢献できる女性の育成に取り組む。
	<p>～かけがいのないいのちを生きる存在であることを意識し、自らの可能性の実現に向けて挑戦しよう～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と同じように他者のいのちも大切にしよう</li> <li>・互いに学びあうことを通して、仲間とつながる喜びを体感しよう</li> <li>・身近な集団や地域社会・国際社会の中で、自分ができることを見つけ、心から喜んで行動しよう</li> </ul>
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生徒各々に応じた学力向上を図り、進学実績を向上させる（生徒の可能性を見極め一人ひとりが進路目標を達成できるようサポート）</li> <li>・アウトプット力の養成（思考力・判断力・表現力を培う）</li> <li>・部活動・生徒会活動の振興、社会性とリーダーシップの養成（地域と連携した活動）</li> <li>・特別支援教育の充実（建学の精神を基盤にした、特別支援教育・共生教育の充実）</li> </ul>

## 総括表

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	建学の精神の実践（カトリック精神に基づく教育の推進）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教教育を通じて自己肯定感の醸成を目指す。</li> <li>・宗教の授業や行事を通じてカトリック精神を学び成長の糧とする</li> </ul>	A	宗教の授業や修養会では、聖書の学びを通して自分を含めた人を大切にしている価値観を深めることができている。
		姉妹校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白百合ファミリーの連携を深める</li> <li>・修学旅行時に白百合女子大学への訪問を行い同じ建学の精神に学ぶ理解を深める</li> </ul>	B	学校法人の幼稚園から大学まで全員が参加するオンラインミーティング「聖パウロ・デー」の実施により、ファミリーの一員として多くの生徒・学生が共通の建学の精神のもと学んでいることの認識を持つことができた。
		コースの特色を生かした教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導に取り組む</li> <li>・進路希望に応じたコース編成による指導体制の充実</li> </ul>	A	進級時にそれぞれの進路希望により最適なコースが選択できるよう、学年での情報共有に努めた。進級に際してコース選択のミスマッチが発生しないよう面談や普段のかかわりの中でしっかりと生徒理解に努める。
	開かれた学校づくり	情報公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPの充実及び適切な情報発信</li> </ul>	B	部活動、学校行事等の教育活動や、本校の魅力と特色について発信することができた。HPについては、外部だけでなく在校生や保護者への情報を提供するツールとしても活用できるようにする。
		家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会との連携を充実させる</li> <li>・保護者への情報提供</li> </ul>	A	生徒保護者への各種通知のほとんどをメール配信に切り替えた。保護者からは好評いただいている。
		地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十二校園連絡会で地域学校との情報交換の充実</li> <li>・地域町内会との連携</li> </ul>	A	夏休みに十二校園サマースクールを実施し、所属小学校二校の生徒と一緒に夏休みの宿題に取り組んだ。また、町内会との連携事業も継続して行っている。
	中学校や関係者への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクールの充実</li> </ul>	B	学校説明会は回数を増やして実施したが、もっと多くの中学生に知ってもらえるよう本校の魅力・特色を打ち出した企画内容の充実を図る。	

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学習指導	基礎学力の向上	個々の生徒の実態の把握による対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力診断により生徒それぞれに対応した指導を行う</li> <li>学び直しを実施し、基礎学力の定着を図る</li> </ul>	A	生徒の状況に合わせた指導を行えるよう観点別の評価と、個々の継続的な状況把握に努めた。基礎力診断テストの活用についてはまだ十分とは言えないため、しっかりと活用し基礎学力向上を図る。
	学習習慣の確立	学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律学習への構えをつくる</li> <li>各教科と連携し課題を課す</li> </ul>	B	進路実現のための働きかけにより、生徒の主体性を育むことで、能動的な学習への取り組みを目指す。
	ICT教育の充実	授業でのICT活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した授業の充実</li> </ul>	C	1人1台端末の段階的導入に対して、研究授業の実施により各教科のICTを活用した授業の共有を図りたい。さらなる活用の研究を進め、授業の充実を図り教員側のスキルを高める。
	教員の指導力向上	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかりやすく生徒を引き付ける魅力ある授業の実践</li> </ul>	B	授業アンケートを実施し、授業改善に役立てた。
進路指導	進路目標実現	進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路ガイダンスの計画的な実施</li> <li>各学年での組織的な指導</li> <li>面談の充実</li> <li>進路実現のための具体的な対応（模試、進路指導等）</li> </ul>	B	個別面談（教育相談）を計画的に実施し生徒理解に努めた。また、進路情報を自ら積極的に収集し、将来についての意識を高めるべくキャリア教育の充実に取り組んでいる。今後は従来の情報提供型から体験型のガイダンスへの変更も含め進路意識を高めることに努めたい。
		インターンシップの活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップマッチングの強化と内容の充実</li> </ul>	A	昨年度までコロナ禍の影響によりオンラインでの実施だったが、今年度ようやく現場での体験ができるようになり、2学年を対象に実施することができた。今後も継続することで進路意識の向上と意欲の喚起を図りたい。
生徒指導	生活指導	品格ある白百合生としてのマナー指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、服装、時間の厳守等ルールとマナーが身につくよう整容指導の徹底</li> </ul>	A	教育活動全体を通して指導している。また、挨拶については多くの生徒が指導の必要なく気持ちよくできている。教室の整理整頓等を全員で行うよう徹底を図りたい。
		基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムの確立</li> </ul>	B	遅刻や早退の減少と体調管理の徹底と家庭との連携強化に努める。
		交通安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学時の街頭指導を行う</li> <li>通学時のスマートフォンやイヤホン装着について使用指導の徹底</li> </ul>	A	登校指導、講話等を通じて交通事故防止の啓発に努めた。また、事故回避のため学校周辺の自転車登校経路を設定し順守することで朝の混雑時における地域の交通についても配慮し、交通安全に努めた。
	安全安心な環境づくり	いじめの未然防止、早期発見、早期対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談やアンケートの実施</li> </ul>	A	個別面談（教育相談）や通常のコミュニケーションを通じて生徒が相談しやすい環境を整備し、早期発見・早期対応に努める。
	特別支援教育	特別支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家・機関との連携強化によりきめ細やかな生徒指導。支援の充実</li> <li>個別的教育指導・支援計画の策定</li> <li>ケース会議の充実</li> <li>保護者との連携強化</li> </ul>	A	コーディネーター及び担当教員とSC・SSWとの情報共有により組織的に具体的な支援に取り組んでいる。個別の指導・支援計画についても、保護者も含めた関係者との連携強化によりさらに充実させたい。

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
特別活動	国際交流の推進	韓国姉妹校との交流 その他の国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の交流を展開する</li> <li>「総合的な探究」での韓国語講座の実施</li> </ul>	B	コロナ禍により昨年度まではオンラインでの交流だったが、ようやく訪問及び受け入れでの交流を再開することができた。ホームステイ等によりお互いの国際理解を深めた。また、インバウンド旅行者のための通訳ボランティアにも取組んだ。
	ボランティア活動の推進	奉仕活動への理解を深める 心豊かな生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動への積極参加を促す</li> <li>各種支援施設との交流</li> <li>校内献金活動を通して他者への慈愛の精神の醸成</li> </ul>	B	校外ボランティア活動において様々な分野で多岐に渡る活動に多くの生徒が参加することが出来ている。
	インターアクトクラブ活動の推進	地域奉仕プロジェクトへの参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域貢献の意義を学ぶ</li> </ul>	A	生徒会が中心となり担当地域ロータリークラブの協力により各種体験活動や奉仕活動に取り組むことが出来ている。
	部活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国レベルの部活動への活動環境整備</li> <li>部活動を通じての地域貢献活動</li> </ul>	A	各種大会で活躍することができている。練習時間の確保と効果的な練習の追及により、学業と両立しながら活動の活性化を図る。

A 達成できた、B 概ね達成できた、C あまり達成できなかった、D 達成できなかった

#### 次年度への課題および改善点

コースの特色を生かした教育活動により、生徒それぞれが高校生活を充実させながら、より高い進路目標実現のためにきめ細やかな指導を充実させる。

ICT機器の利活用の充実に合わせて、双方向でのオンライン授業等についても検討する。

カトリックミッションスクールという立場から、建学の精神を根底にした私立学校らしさ、カトリック学校らしさを重視した学校運営を考えていく。